

都市再生整備計画(第5回変更)

ひがし あすか こくぶんじ
東の飛鳥国分寺地区

とちぎ しもつけ
栃木県 下野市

令和6年10月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	栃木県	市町村名	しもつけ 下野市	地区名	ひがし、あすか、こくふんじ 東の飛鳥国分寺地区	面積	360 ha
計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 8 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 8 年度				

目標

- 大目標 歴史的風致と多様な交流による魅力があふれる「東の飛鳥」地域づくり
- 目標 四季をとおして様々な利用者が訪れる公園の再生
- 目標 地域と市民と来訪者がつながる交流環境の形成

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・市内には、畿内や東海地方からの古墳文化に影響を受けた多くの古墳や、古代東国仏教の中心寺院である下野薬師寺跡、下野国分寺跡、下野国分尼寺跡が存在し、いずれも国の史跡として指定されている。これらの史跡は、100年間にわたって、地域住民の協力のもとに調査・保存・整備が行われており、誇るべき貴重な地域アイデンティティとして市民に愛されている。また、八坂祭や太々神楽などの神社祭りにみる信仰や伝統行事、300年もの歴史をもつ特産品の干瓢生産にみる文化的景観なども有することから、これらの資源を守り、次代へ引き継ぐため、平成31年3月に「下野市歴史的風致維持向上計画」を策定したところである。
- ・本市では、特に3つの国指定の史跡に関しては、国や県の協力のもとに、各史跡ごとに保存整備のための基本構想・基本計画を策定し、保存整備とともに地域教育・イベントの実施、歴史資料館整備などを長年にわたり実施してきた。平成31年からはこの歴史文化を都市の魅力やブランドに改めて活用するため、「東の飛鳥 下野市」をテーマに地方創生に着手している。
- ・本計画の対象地区は「下野市歴史的風致維持向上計画」重点区域の国分寺地区に重複し、「東の飛鳥」を象徴する下野国分寺跡と国分尼寺跡の2つの史跡が位置するものであり、史跡保存整備に加えて、VR技術による現地体験や近接地に立地する県立埋蔵文化センターや風土記の丘資料館などにより学習機会の充実を図っている。また、2つの史跡と一体的に配置する天平の丘公園は、歴史性ととままりある平地林を活用した緑地空間、古民家を活用した交流空間、幼児・児童用の遊び空間など、広い世代から活用され、特に園内に広がる多種の桜(約500本)を中心とした「天平の花まつり」は毎年20万人以上が来訪する大イベントとして本市の賑わいづくりに貢献している。
- ・地区内には、他にも丸塚古墳や愛宕塚古墳、甲塚古墳、現在の国分寺、干瓢生産の風景などを有しており、古墳保存整備や小学校跡地活用による民俗伝承事業を推進するなど、地区全体で歴史的風致のための施策をスタートしている。

課題

- ・本地区の中心的エリアを形成する下野国分寺跡・下野国分尼寺跡・天平の丘公園のうち、2つの史跡の保存に関する事業は情報発信拠点であるしもつけ風土記の丘資料館整備も含め令和2年に完了するが、公園エリアにおいては昭和60年代にハード整備が行われた駐車場やトイレ、休憩所等は30年余りが経過し、施設の老朽化や多様化する来訪者のニーズに対応できていない状況であり、特にバリアフリー対策が遅れている。
- ・また、優れた景観要素である公園内の桜は老木化の進行により徐々に枯れて空白地が発生している状況となっており、また、平地林活用策のひとつである万葉植物園も植生の弱まりや施設の老朽化が見られることから、早急の対策が求められている。
- ・公園来訪者の多くは春の「天平の花まつり」に集中しているが、その数は年々減少傾向(直近では平成31年21万人一令和元年20万人)にあることから、その他の時期においても安定的に来訪者を増やすために、平成30年には古民家活用の交流スペース・カフェの整備、令和元年には、しもつけ燈げ会などの交流イベントの新設を実施した結果、徐々にその効果が発現しており、この傾向を持続させるための新たな魅力づくりを重ねていくことが重要である。
- ・平成31年4月施行の改正文化財保護法により文化財のあり方は、「保存・保護」から「保存・保護しつつ活用」へとシフトされたことから、既存の「下野国分尼寺跡及び周辺整備基本構想」との整合を図りつつ、一年を通してより多くの利用者が訪れる公園としての再整備が課題となっている。
- ・本地区北側には丸塚古墳や愛宕塚古墳が保存整備されているが、来訪者を積極的に誘導するソフト事業は実施されないことから、3つの国指定の史跡と合わせた観光ネットワークの仕組みづくりが求められる。
- ・管理やガイド活動においては、行政とともに地域の住民・学校・団体の協働により実施しているところであるが、主力メンバーの高齢化により参加機会も減少していることから、交流機会等を契機にしながら、世代交代や新たな参加者を集めることが求められている。
- ・本地区西側にある主要地方道小山壬生線と市道2-22号線との交差点は、地区の中心的エリアへの入り口となっているが、交差点付近の宿泊施設が景観を著しく害していることが長年の懸案であった。宿泊施設は廃業し建築物だけが残されていたが、この度所有者が売却の意向を示したことから、敷地の公有化及び整備の目的が長期的に、公園として整備し、景観の改善、歴史的風致の更なる醸成を図る。また、隣接道路の市道2-22号線の拡幅を行い、周辺史跡地への周遊性確保を図る。

将来ビジョン(中長期)

【下野市第二次総合計画】

- ・本地区は「文化財活用広域連携拠点」に位置づけられ、本市とその周辺自治体に広がる歴史的資産を次世代に継承し、文化遺産として様々な活用するため、本市と周辺自治体が連携し文化財活用の広域的なネットワーク化による情報発信や連携した環境整備を進めることを掲げている。
- ・特に天平の丘公園は「観光交流拠点」に位置づけられ、本市の豊かな自然、公園、交流施設を活用した観光・体験などの多目的な交流の拠点として、市民はもとより、市外から訪れる人たちの憩いの場として、積極的な活用を図るものとしている。

都市のコンパクト化の方針

- ・本市では立地適正化計画制度の趣旨に基づき、市内にある3つの鉄道駅を、都市機能の集積地点となる核として相互に連携することを目指し、それらを公共交通でつなぐ「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を目指している。当該区域の整備は立地適正化計画に定めた都市機能の集積を目的としたものではなく、文化観光拠点の活用のためであり、その文化観光拠点と市の機能集積地点を公共交通でつなぐことで、都市圏全体の魅力向上に供するものである。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
史跡及び公園滞在時間比率	%	史跡や公園で1時間以上滞在用する来訪者の割合	歴史的風致の資源に触れられる空間での滞在時間を観測することで、史跡及び公園来訪者の満足度の高まりを評価する。	67.6	R1	70.0	R8
史跡及び公園来訪者数	人/年	2つの史跡及び天平の丘公園で開催される主要イベント、公園内施設「風土記の丘資料館」「夜明け前」の来訪者数	既存及び新規イベントと公園内の主要施設における来訪者数を観測することで、公園再生による来訪機会の向上について評価する。	273,000	R1	280,000	R8
地域コミュニティ活動	回/年	地域に関係する市民・団体等が主体となって行われた歴史文化関連イベント等の年間開催数	市民や各種団体等による地域での活動回数を観測することで、交流環境の改善度について評価する。	3	R1	6	R8

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【四季をとおして様々な利用者が訪れる公園の再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の花を通して自然に親しめる公園づくりのため、老化が進む桜の樹勢回復や更新、平地林更新のための伐採、桜以外の花木・草木の設置、万葉植物園の再整備等を図る。 ・にぎわいと活気あふれる公園づくりため、イベント開催時に使用できる電気配線等のインフラ整備、水に親しめる施設の設置等を図る。 ・来訪者に優しく、史跡地を周遊しやすい環境づくりのため、家族連れや高齢者が余裕を持って利用できる駐車場やおもいやり駐車場の整備、市道2-22号線や園路の歩行空間の改善、史跡連絡ルートの新設、案内板の整備、広場の整備等を図る。 ・公園を効率的に管理できる体制づくりのため、日照や安全性(歩きやすさ)確保のための平地林内園路の樹木の伐採、借用民有地の取得等を図る。 ・歴史的風致の資源を巡る観光ネットワークづくりのため、関東ふれあいの道「風土記のみち」やJR小金井駅からのウォーキング観光の促進等を図る。 	<p>■基幹事業</p> <p>公園:天平の丘公園 道路:市道2-22号線 地域生活基盤施設(観光案内表示板) 高質空間形成施設(市道6037号線)</p> <p>○関連事業</p> <p>関東ふれあいの道案内表示整備事業(栃木県)、観光ウォーキングルート整備事業(下野市)</p>
<p>【地域と市民と来訪者がつながる交流環境の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携、地域活性化につながる公園づくりのために、公園来訪機会を促す施設更新、平美林会などの市民団体の活動の活性化支援、市内の農業生産者や商業者との連携等を図る。 ・歴史的風致に関する魅力の情報発信のために、干瓢生産を主とした農業に関する民俗資料や埋蔵文化財・古文書等の歴史的資産にふれる体験機会の提供、パンフレットやVR等を活用した児童・生徒の学習機会や来訪者への情報発信、史跡等への来訪者に対する案内・説明ガイドの養成等を図る。 ・歴史的風致の維持向上のために、民有地を取得しての景観改善、歴史的風致形成建造物の保存、下野市景観計画の策定を図る。 ・継続的に地域づくりを促進するために、本計画による事業効果を分析し、次期取り組みへつなげる。 	<p>■基幹事業 ※再掲</p> <p>公園:天平の丘公園(史跡公園整備) 道路:市道2-22号線 地域生活基盤施設(観光案内表示板) 高質空間形成施設(市道6037号線)</p> <p>□提案事業</p> <p>地域創造支援事業:東の飛鳥国分寺魅力促進事業、万葉植物園再整備事業、歴史文化学習・発信事業 事業活用調査:事業効果分析調査</p> <p>○関連事業</p> <p>文化財観覧ガイド養成事業、干瓢生産道具保存活用事業、歴史的風致建造物保存事業、下野市景観計画策定事業(下野市)</p>
<p>その他</p>	
<p>【市民参加のまちづくり活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平美林会や学校団体等の平地林内の清掃を通して、地域の歴史を学び、また、自然に親しみ保護していくという代々受け継がれてきた風土について、今後も継続実施することで、後世に伝えて行く。 <p>【庁内の事業実施体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路、公園の都市基盤整備をはじめ、文化財、商工観光、文化振興、景観形成等の様々な分野にわたる事業であることから、交付期間中は関係課による庁内連絡協議会を設け、情報の共有化と円滑な事業推進に努めるものとする。 	

<p>東の飛鳥国分寺地区(栃木県下野市)</p>	<p>面積</p>	<p>360 ha</p>	<p>区域 柳原、上ノ宮、調練場、淵上、遠島、馬場境、町田、細町、谷中、山ノ前、東国分、西国分、清水畑、阿弥陀、愛宕、山王久保、花見ヶ岡、西浦道上、西浦道下、大橋、蛭堀、サイ川、前国分、山神、西原、西久保、庚甲久保、鹿嶋、愛宕前、北薬師堂、海道西、小田原、西川原、南国分、熊下、土原、田畑、愛宕塚、桃塚、釈迦堂、中井、東薬師堂、桶越、前田、龍神際、龍神前、稻荷際、山王、山海道、大口、新開、淵ノ上、ハツ窪、白山前、中道、庵北、前山、下川原、辰谷、西原、川岸道、塔ノ南、上野原</p>
--------------------------	-----------	---------------	---

